



小牧市民病院 第2呼吸器内科部長医師

高田 和外



昨今の情報化の影響で一般の皆さんも難しい医学用語や病名を耳にする機会が増えたと思います。今回は咳嗽（せき）という簡単なテーマにしました。すべての人が経験する病気（症状）ですが、実は現代医学を駆使してもその原因追究や治療には未だ難渋することもあり、大学病院で咳専門の外来を設置しているほどです。ここでは咳診療の入門的な部分をご紹介します。と思います。

急性咳嗽（発症から3週間まで）

ほとんどが感染症（風邪や気管支炎）と考えられています。鎮咳剤（咳止め）や場合によっては抗生剤（風邪には効きません）で治療します。咳以外の症状もある場合はレントゲン検査なども行います。

遷延性（3〜8週間まで続く）・慢性咳嗽（8週間以上続く）

ガンや結核などの大きな病気が潜んでいる可能性もあり、レントゲンやCT検査、血液検査、肺機能検査が必要になってきます。

気管支喘息・喘息

気管支の反応性（気道過敏性）がもともと増している体質の人に刺激（風邪など）が加わり、咳として発症する場合があります。喘鳴（ゼーゼーという音）を伴う場合を気管支喘息と呼びますが、就寝前や就寝中に悪化しやすい咳嗽が

です。気道可逆性検査やヒスタミン吸入試験を行い診断しますが、これらの検査を擦り抜けてくる場合もあります。疑わしい場合は、治療用の吸入薬の効果をみて臨床診断とする場合もあります。また、当院では空気振動を利用して細い気管支の状態を調べる最新の機器もあります。治療は先程の吸入薬を用います。妊婦さんでも安全性が確立されている安心な薬ですが、咳が治っても長期間続けなければ再発する場合があります。

喫煙による慢性気管支炎

タンを伴う場合が多いです。咳を止める薬を使う前に禁煙しましょう。当院や近隣の医院でも禁煙外来を設けてサポートしています。あなたの決断をみんなが待っています！

感染後咳嗽

百日咳やマイコプラズマ感染などの後に咳が長引くことがあります。血液検査である程度診断できますし周囲の方の病歴からも推測できます。

胃食道逆流症

胃酸が逆流し、のどや気管支を刺激して咳が続きます。胸焼けなどの特徴的な症状を伴うことがほとんどです。胃酸を抑える薬が有効ですが長期間の使用が必要なことが多いです。

後鼻漏

鼻水がのどに垂れて、のどを刺激し咳が誘発されます。蓄膿症（副鼻腔炎）になっていることもあります。アレルギーの薬などを用いて治療します。

気管支拡張症

タンを伴う場合が多く出血（血痰）を伴うこともあります。CT検査で異常な気管支が明らかになります。特効薬はなく、症状や病気の範囲によっては手術となることもあります。気管支保護作用のある薬を数カ月〜1年程使用することが多いです。近年、非定型抗酸菌（結核菌の仲間の細菌）が検出されることが増えています。

気管支結核・中枢型肺ガン

これらはCT検査などでは発見しにくいタイプです。治りが悪い咳の場合、これらを除外するために気管支鏡検査（肺のカメラ）が必要になることもあります。

以上は慢性咳嗽の原因の代表例に過ぎず、またこれらの混合型もあります。そのため診療に時間がかかる場合もありますが、なかなか治らない咳はぜひ専門医にご相談ください。

問合先 市民病院（☎76-4131）